

会場準備

会場準備は、十一月十四日に行われた。いわぽんフェスタに向けて文化祭の会場を設営したり、住吉公園にテントを設置したりした。会場射的(11・21)の設置には、中学生の男の子が積極的に手伝う姿もあった。私たちは当日の成功を期待してお手伝いをした。本番へのイメージもより膨らみ、屋台やしおり作りへの期待も高まった。



会場(外)の準備の様子

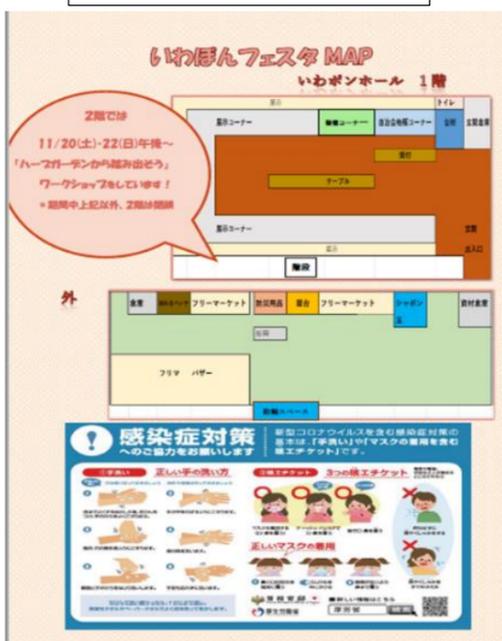


会場(内)の準備の様子

チラシとマスクの配布

いわぽんフェスタの初日から三日間、受付にてチラシとマスクを配布する予定で準備したが、どちらも初日ですべて配り終えてしまった。チラシには、いわぽんフェスタ会場のMAP、イベントの案内、マスクのつけ方を掲載した。チラシを通して正しいマスクのつけ方を知ってほしいと願い、また、配布したマスクの品質に気を配り、ウイルスを防御する機能の高いKF94という韓国製品を用意した。

実際に配布したパンフレット



しおり作りの様子



しおり作り

しおり作成では様々な世代の方が参加してくださった。このしおり作成では、名前の通りしおりを来場者に作成してもらおうという企画である。事前に私たちが画用紙を様々な形で作成しそこにシールを貼り、絵などを描き、ラミネートするというものだ。シールの中には松戸市の鳥であるフクロウやツバメの絵を用いたものを事前に用意した。

冒頭で述べたように、いわぽんフェスタでの屋台やしおり作りは、一から考えながら運営を務めた。前例がないために、人が来てくれるのか、うまく対応できるかなどの不安が大きかった。しかし、そんな不安も跳ねのけるほどの賑わいを見せてくれた。今までは文化祭の展示会場の中まで入ってくる子どもは少なかったというが、とても多くの子どもが参加し笑顔を見せてくれた。また、親子が一緒に作っていたり、子どもが大好きなお父さん、お母さんに向けて作ったりなど、心温まるシーンが見られた。小さい子どもから、大人、さらには高齢者をも笑顔にできたこの活動は自治会の課題である世代間交流にもつながったのではないかと自負している。

自治会のPR動画制作

いわぽんフェスタへの参加とあわせて自治会活動をPRする動画の制作も行った。自治会役員の方々の活動に対する思いやコロナ禍での活動の難しさをテーマに、六月から取材を開始した。

授業の合間を縫っての取材活動や編集は大変だったものの、知りたい情報を自分で掘める楽しさを毎回感じる事が出来た。二月初旬には、完成したDVDを岩瀬自治会役員にお渡し、自治会の皆さんに視聴していただく予定だ。

編集後記

私たちの活動の課題であった世代間交流をいわぽんフェスタへの参加を通じてある程度達成することができた。その場集った子どもから高齢者まで、みんなが笑顔になる活動となったように思う。企画から運営に至る過程では、様々な問題が発生したが、結果として自治会の皆様ににご満足いただけたことが大きな自信に繋がった。次年度以降も、屋台運営などを継続することで自治会との交流を今まで以上に深めていってほしい。